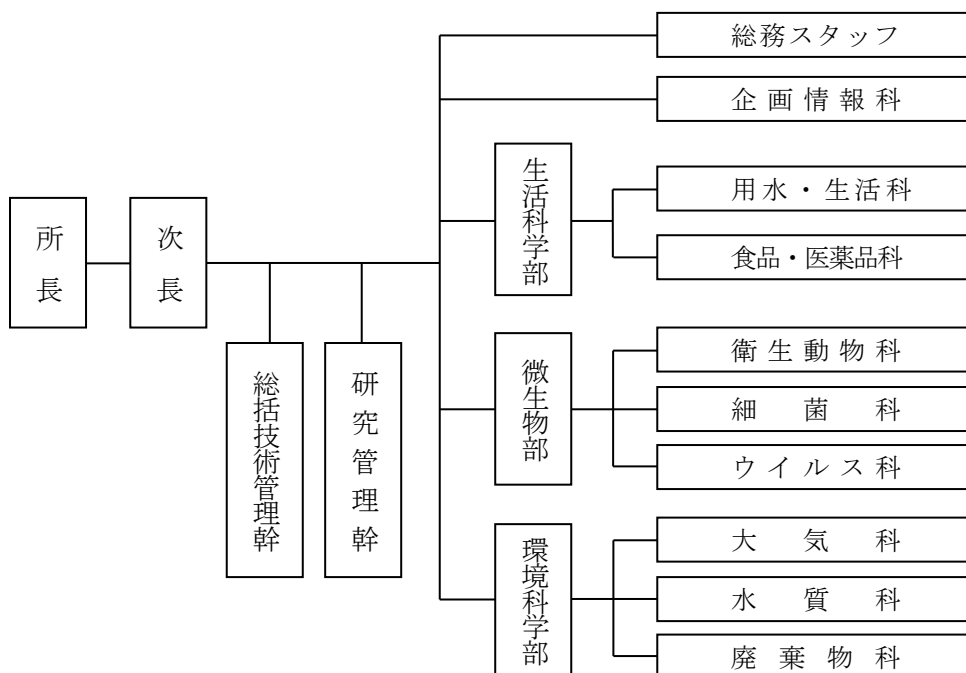


I 組織と沿革



組織



沿革

- 昭和 24 年 県立医学研究所として、甲府市中央に創設。
- 昭和 35 年 県立衛生研究所に改称。
- 昭和 46 年 甲府市富士見に新築移転。
- 昭和 48 年 衛生検査センターを甲府市中央に創設し、行政検査の一部を分掌。
- 昭和 50 年 県立衛生研究所を県立衛生公害研究所に改称。
- 昭和 59 年 衛生検査センターを甲府市太田町に新築移転し検査機能を強化。
- 昭和 60 年 県立衛生公害研究所を衛生公害研究所に改称。
- 平成 9 年 衛生検査センターを衛生監視指導センターに改称。
- 平成 22 年 衛生公害研究所と衛生監視指導センターを組織統合し、衛生環境研究所に改称。
旧衛生公害研究所を本所、旧衛生監視指導センターを分所として業務開始。
- 平成 24 年 分所から機器等を本所に移転し、業務を統合。

Ⅱ 業務報告

企画情報科・総務スタッフ

1 講師派遣及び研修の実施状況

新型コロナウイルス感染症の感染拡大による研修会等の中止により、該当なし。

2 委員会、協議会並びに業務関連学会の委員など

委嘱団体等の名称	役員等の名称	職員氏名	任期その他
地方衛生研究所全国協議会関東甲信静支部	細菌研究部会委員	植松 香星	令和4年度
地方衛生研究所全国協議会関東甲信静支部	公衆衛生情報部会代表委員	植松 香星	令和4年度
地方衛生研究所全国協議会関東甲信静支部	ウイルス研究部会委員	大沼 正行	令和4年度
(一社)山梨県浄化槽協会	精度管理委員	堀内 雅人	令和4年度
日本水環境学会関東支部	幹事	長谷川 裕弥	令和4年度

令和4年度地方衛生研究所全国協議会関東甲信静支部第12回公衆衛生情報研究部会の開催（代表委員）

令和4年11月18日

3 来所者

月 日	目 的	来 所 者
8月 9日	インターンシップ	薬剤師職希望者（3名）Teamsによる参加
12月27日	インターンシップ	薬剤師職希望者（4名）

4 刊行物

年 月	名 称	概 要
4年12月	山梨県衛生環境研究所年報 第65号	研究報告、業務報告、資料、学会発表等

当所ホームページ (<https://www.pref.yamanashi.jp/eikanken/index.html>) に掲載

5 所内の技術研修

月 日	発表者	内 容
4月27日	岩下功子	服務等に係る確認事項について
5月25日	堀内雅人	試薬の管理について
6月29日	堀内雅人	危険物の取扱と実験安全について
7月27日	小泉美樹 渡辺和子	新型コロナウイルス感染症 感染防止対策
9月28日	堀内雅人	口頭発表と申請書作成の要点（令和4年度第1回総理研研修会より）
10月26日	堀内雅人	毒物劇物管理について
11月30日	渡辺和子	新型コロナの新たな療養体制について
12月21日	堀内雅人	研究倫理について
2月22日	堀内雅人	実験安全のために
3月22日	渡辺和子	地方衛生研究所の体制強化について

6 研究倫理に関する研修

受講者	実施機関	研修コース
所員全員	日本学術 振興会	研究倫理 e-ラーニング

7 成果発表会

令和5年3月に開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、開催を中止した。

8 調査研究課題評価及び倫理審査

調査研究課題に関する評価の客観性、公正さ、信頼性を確保するため、外部専門家を評価者とする外部評価委員会を開催した。

(1) 外部評価委員会の開催

【研究課題評価（事前・事後評価）及び倫理審査】

開催日	令和4年7月27日
開催方法	Web形式（新型コロナウイルス感染症の発生を踏まえ参集を中止）
評価者	外部評価委員 7名
評価内容	調査研究開始前及び終了した調査研究課題についての適切性・妥当性と新規調査研究の倫理審査について
	開始前の研究課題 1題
	終了した研究課題 1題
	新規調査の倫理審査 1題

(2) 評価委員

会 長	風間ふたば	山梨大学	理事
副会長	金子 栄廣	山梨大学大学院総合研究部	教授
委 員	大西 一成	聖路加国際大学公衆衛生大学院	環境保健分野 准教授
委 員	小島 夏子	(公財)やまなし産業支援機構	特許流通コーディネーター
委 員	佐野 芳仁	株式会社テンヨ武田	製品本部 営業部次長
委 員	高山 一郎	山梨大学保健管理センター	教授
委 員	藤原 真史	山梨大学大学院総合研究部	准教授

(3) 評価方法

各評価項目の評価に基づき、5段階（5：優れている、4：良好、3：概ね良好、2：部分的見直しを要す、1：全面的見直しを要す）の総合評価を行い、コメントを付す。

事前評価項目	1	研究の必要性
	2	研究内容の妥当性
	3	研究内容の新規性・独創性
	4	研究資源の妥当性
	5	目的達成の可能性
	6	期待される研究成果

事後評価項目	1	目的の達成度
	2	研究成果の活用
	3	今後の発展性

倫理審査	1	承認
	2	条件付承認
	3	変更の勧告
	4	不承認
	5	非該当

(4) 評価結果**【研究課題評価（事前評価）】**

総合評価点 1題 「4：良好」であった。（表1）

【研究課題評価（事後評価）】

総合評価点 1題 「3：概ね良好」であった。（表2）

【倫理審査】 「2：条件付き承認」（表3）

表 1 第 1 回研究課題評価（事前評価）

研究課題名	「自然毒を原因とした食中毒事例を想定した有毒成分の機器分析法に関する研究」
総合評価点	4
総合コメント	誤食等による自然毒由来の中毒の原因物質の究明には必要な技術開発であり、研究の意義は高いと考える。特に吐瀉物の前処理条件の設定は他の分析法の開発にも有用と考える。他の地方衛生研究所との連携をうまく図りながら、原因の特定方法が確立されることを大いに期待する。

表 2 第 1 回研究課題評価（事後評価）

研究課題名	「無機成分とその濃度の違いがコーヒーやお茶の風味に及ぼす影響」
総合評価点	3
総合コメント	限られた予算の中での研究継続に敬意を表したい。 本県産のミネラルウォーターに通常含まれる程度の無機成分が、コーヒーやお茶の味に及ぼす影響については明確な結論が出なかったが、香りへの影響は示唆された。官能試験の必要性も指摘されたので、挑戦してほしい。一方で、今後県民参加イベントなどにおいて、県民と一緒に模擬官能試験データを作るくらいのもりで、楽しみながら取り組んでいってもよいのではないかと。いずれにしても県民の関心が高いミネラルウォーターについて、その奥深さの一端を示すことができている、公的機関にふさわしい、長期的な取り組みにつなげることを期待したい。

表 3 倫理審査

研究課題名	「塩素消毒が困難な泉質におけるモノクロミン消毒の有効性に関する検討」
倫理審査結果	条件付き承認
条件	審査時指摘事項を倫理審査事項計画書に追記する

生活科学部

試験検査 実績

部名	科名	区分	小区分	行政試験		依頼試験		合計		備考
				検体数	項目数	検体数	項目数	検体数	項目数	
生活科学部	用水・生活科	飲用水・用水等の試験	水道水試験	0	0	0	0	0	0	
			水道原水試験(項目:農薬)	50	1,268	0	0	50	1,268	
			一般飲料水試験	0	0	0	0	0	0	
			用水試験	0	0	0	0	0	0	
			放射能	85	255	0	0	85	255	
			その他	0	0	0	0	0	0	
		家庭用品試験	家庭用品試験	48	123	0	0	48	123	
		温泉分析	温泉分析	19	322	0	0	19	322	
		科 計			202	1,968	0	0	202	1,968
	食品・医薬品科	食品等試験	残留農薬試験	100	20,962	0	0	100	20,962	
			食品等の理化学試験	289	2,776	0	0	289	2,776	
			放射能	80	223	0	0	80	223	
			残留動物用医薬品	98	3,957	0	0	98	3,957	
			その他	0	0	0	0	0	0	
		医薬品試験	医薬品等の試験	2	23	0	0	2	23	
		科 計			569	27,941	0	0	569	27,941
	部 計			771	29,909	0	0	771	29,909	

1 用水・生活科

山梨県水道水質管理計画に基づく水質監視

「令和 4 年度水質監視実施計画」に基づき、県内の水道水源を 6 月 (24 定点) と 9 月 (26 定点) に採水し、水質管理目標設定項目の農薬類について調査した。水質管理目標設定項目の農薬類は全ての定点で不検出だった。

水道水中の放射性物質検査

原子力発電所放射能漏れ事故に関連し、県内 85 箇所の水道水 85 検体の放射性物質試験(対象放射性核種は、Cs-134、Cs-137)を実施したが、いずれも不検出だった。

温泉の定時・定点調査

温泉資源の保護および有効利用のための基礎資料を蓄積するために、既存温泉の定時・定点調査を昭和 60 年度から行っている。令和 4 年度も森林環境部大気水質保全課と共同で、中北および峡東林務環境事務所管内の 19 定点について、温泉水を採取して主要成分を分析した。

家庭用品

福祉保健部衛生薬務課が試買した繊維製品 48 検体についてホルムアルデヒドの検査を、3 検体についてアゾ化合物(芳香族特定アミンを生成するものに限る)の検査を行った。

全ての検体において基準値以下であった。

室内空気中の揮発性有機化合物濃度調査

県内 3 か所の家屋の室内空気中のアルデヒド・ケトン類の採取を年 1 回行った。検体は国立医薬品食品衛生研究所に送り分析された。

2 食品・医薬品科

残留農薬試験

「令和 4 年度山梨県食品衛生監視指導計画」に基づいて収去された国産の農産物（果実・野菜等）63 件（県内産 55 件、県外産 8 件）と輸入食品 12 件（農産物 8 件、冷凍食品 4 件）について、概ね 240 項目の農薬を検査したが、全ての検体が残留基準以下であった。（資料 表 1-1、1-2）

また、「畜水産食品の残留有害物質モニタリング検査実施要領」に基づき、県内産の牛・豚・鶏 25 件（牛 9 件、豚 8 件、鶏 8 件）の筋肉について、残留農薬試験を行ったが、いずれも不検出だった。

理化学試験

「令和 4 年度山梨県食品衛生監視指導計画」に基づいて収去された食品等 289 件について、2776 項目の食品添加物等の検査を行った。

残留動物用医薬品試験

「畜水産食品の残留有害物質モニタリング検査実施要領」に基づき、県内産の淡水魚（10 件）、鶏卵（15 件）の抗生物質および合成抗菌剤等について検査を行ったが、全て不検出だった。

また、県内産の牛 9 個体、豚・鶏各 8 個体の筋肉、腎臓、肝臓の 3 部位について、妥当性評価試験が終了した約 46 項目の動物用医薬品試験をしたところ、いずれも不検出だった。

農産物等の放射性物質試験

原子力発電所放射能漏れ事故に関連し、県内で生産もしくは流通する食品等、80 検体（収去・検体を含む）の放射性物質試験（対象放射性核種は、I-131、Cs-134、Cs-137 の 3 核種）を実施した。

医薬品等の試験

「令和 4 年度医薬品・医療機器等一斉監視指導実施要領」に基づき、1 月に衛生薬務課が収去した医薬品 1 件の規格等の試験検査と、1 月に衛生薬務課が収去した真空採血管 1 件の日本工業規格試験（一部）を実施した。いずれも基準に適合していた。

食品衛生外部精度管理調査

「試験検査等業務管理要領」に基づき、(財)食品薬品安全センター秦野研究所が実施した外部精度管理調査に参加した。対象物質は残留農薬のダイアジノン、クロルピリホス、アトラジン、食品添加物の着色料、ソルビン酸、残留動物用医薬品のスルファジミジン、米のカドミウムを試験した。

地方衛生研究所地域保健総合推進事業に係る模擬試料による訓練への参加

食品による健康影響事故を想定し、模擬試料に含まれるシュウ酸カルシウムを試験した。試料をアルカリ処理し検鏡を行ない、結果を報告するとともに、各地衛研の結果について書面による意見交換を行ない関連事故への対応を協議した。

微生物部

試験検査 実績

科名	区 分		小 区 分	行政試験		
				検体数	項目数	
衛生動物科	寄生虫検査			0	0	
	衛生動物検査			4	4	
	花粉飛散量調査			135	244	
	食品衛生検査		食中毒集団下痢検査	0	0	
			アニサキス同定検査	5	5	
計			144	253		
細菌科	感染症等検査		腸管出血性大腸菌検査	28	196	
			その他三類感染症検査	0	0	
			薬剤耐性菌検査	12	60	
			レジオネラ属菌検査	1	4	
			結核菌検査	3	6	
			その他サルモネラ属菌検査	9	27	
	食品衛生検査		食中毒集団下痢検査	276	4,968	
			食品検査	0	0	
	医薬品等検査		無菌試験	1	4	
	浴槽水収去検査		レジオネラ属菌検査	12	48	
	食品収去検査		細菌検査	376	1,113	
ふきとり検査		細菌検査	932	1,864		
計			1,650	8,290		
ウイルス科	流行予測調査		インフルエンザ	125	500	
	感染症発生動向調査		定 点	ウイルス分離検査	57	223
			定点以外	ウイルス分離検査	5	17
			新型コロナウイルス検査	56,337	59,548	
	食品衛生検査		食中毒集団下痢検査	433	894	
計			56,957	61,182		
合 計			58,751	69,725		

1 衛生動物科

衛生動物等に関する検査

同定依頼、駆除法および生態等についての問い合わせが 4 件（昆虫類 3 件、その他 1 件）あった。内訳は衛生動物についての同定・相談が 3 件、電話相談が 1 件であった。

食中毒関連の同定依頼は 5 事例（5 検体）でアニサキスであった。（資料 表 2-1）

空中花粉調査

甲府地区で実施した今季（2023. 1. 1～2023. 5. 15）の総飛散数は 9170. 4 個/cm²（スギ花粉 6337. 7 個/cm²、ヒノキ花粉 2832. 7 個/cm²）であった。これは前年（それぞれ 2321. 5 個/cm²、1580. 9 個/cm²）と比較してスギ花粉 2. 7、ヒノキ花粉は 1. 8 倍と多かった。

（資料 表 2-2）

2 細菌科

感染症等に関する検査

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律に基づいて、医療機関から保健所に届出があった全数報告の三～五類感染症の調査として、保健所から依頼された細菌検査を行った。

三類感染症では、腸管出血性大腸菌感染症 28 検体について分離・同定を行い、分離菌株について毒素型別、血清型別、MLVA 検査を行った。

四類感染症では、レジオネラ症の患者喀痰 1 検体について、分離・同定を行った。

五類感染症では、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症の分離菌株 12 検体について、菌種同定、薬剤感受性試験、耐性遺伝子及びカルバペネマーゼ産生性の検査を行った。（資料 表 2-3）

山梨県結核菌検査実施要領に基づき、医療機関で分離された結核菌 3 株について VNTR 検査を行った。

食中毒・集団下痢症等の検査

食中毒疑い及び集団下痢症事例について、保健所から依頼された糞便（134 検体）、食品（71 検体）、ふきとり・その他（71 検体）の細菌検査を行い、糞便からウェルシュ菌（29 株）、黄色ブドウ球菌（5 株）、カンピロバクター（2 株）、腸管病原性大腸菌（2 株）、食品からセレウス菌（2 株）、腸管病原性大腸菌（1 株）が分離された。（資料 表 2-4）

食品・医薬品等に関する検査

「令和 4 年度医療機器一斉監視指導」に基づいて収去

された真空採血管 1 検体について無菌試験を実施したが、結果は「基準適合」であった。（資料 表 2-5）

浴槽水等のレジオネラ属菌検査

レジオネラ症患者発生に伴う関連調査で、保健所から依頼された浴槽水及びふきとり 12 検体の検査を行ったところ、5 検体から 7 株のレジオネラ属菌が分離された。菌種は全て *L. pneumophila* であり、群血清は別添資料のとおりであった。（資料 表 2-6）

食品収去検査

「令和 4 年度山梨県食品衛生監視指導計画」に基づいて収去された食品 376 検体について、一般生菌数、大腸菌群、*E. coli* 等 1, 113 項目の細菌検査を行った。（資料 表 2-8）

ふきとり検査

施設の衛生指導を目的とした、まな板、包丁等 932 箇所のふきとり検体について、大腸菌群と黄色ブドウ球菌の検査を行ったところ、大腸菌群は 105 カ所（11. 3%）、黄色ブドウ球菌は 20 カ所（2. 1%）が陽性であった。（資料 表 2-7）

食品衛生外部精度管理

「試験検査等業務管理要綱」に基づき、（財）食品薬品安全センター秦野研究所が実施した外部精度管理に参加した。模擬食材を対象に、7 月に一般細菌数測定、10 月に黄色ブドウ球菌、11 月に大腸菌群を実施し、いずれも良好な結果であった。

3 ウイルス科

インフルエンザ流行予測感受性調査

令和 4 年 8 月に採血された山梨県民 125 名（0-4 歳群は 0 名、5～9 歳群は 3 名、10～14 歳群は 8 名、15～19 歳群は 13 名、20～29 歳群は 18 名、30～39 歳群は 17 名、40～49、50～59、60 歳以上の各年齢群は全て 22 名）から採血した血清を検査材料とした。抗原は、インフルエンザワクチン株 4 株（A/Victoria/1/2020 [A (H1N1) pdm09 亜型]、A/Darwin/9/2021 [A (H3N2) 亜型]、B/Phuket/3073/2013 [B 型（山形系統）]、B/Austria/1359417/2021 [B 型（ビクトリア系統）]）を用い、これらの株に対する血清中の赤血球凝集抑制（HI）抗体価を測定した。詳細は本書の研究報告を参照。（資料 表 2-9）

感染症発生動向調査におけるウイルス検出状況

令和 4 年度に山梨県内の医療機関で感染症患者から採取された検体について、MDCK 細胞を用いたウイルス分離を行った。

分離ウイルスについて RT-PCR 法およびリアルタイム PCR 法によりウイルス同定を行った。

インフルエンザウイルスは A (H3) 亜型が 40 検体検出され流行の中心となった。A (H1) pdm09 亜型は 3 月に 3 検体検出され、B 型については B 型 (ビクトリア系統) が 3 月に 1 検体検出された。

2022 年 7 月にデングウイルス 2 型が、2022 年 11 月にチクングニアウイルスが、それぞれ海外渡航歴がある有症状者から検出された。

令和 2 年 2 月上旬より継続してリアルタイム PCR 法による新型コロナウイルス検査を実施し、また、令和 4 年 7 月上旬より令和 5 年 3 月下旬まで継続して新型コロナウイルスの変異株検査を実施した。(資料 表 2-10)

食中毒・集団下痢症のウイルス検査

令和 4 年度に保健所から依頼された食中毒、集団下痢症 32 事例の 433 検体について、リアルタイム PCR 法および RT-PCR 法によるウイルス検出を行った。その結果、25 事例からウイルスが検出された。検出されたウイルスはノロウイルス G I とノロウイルス G II であった。ノロウイルス G II が最も多く、21 事例から検出された。また、ノロウイルス G I は 2 事例で検出され、ノロウイルス G I とノロウイルス G II の混合検出事例が 2 事例発生した。(資料表 2-11)

環境科学部

試験検査 実績

科名	区分	小区分	行政試験	
			検体数	項目数
大気科	環境大気試験	大気汚染常時監視	3,650	28,105
		有害大気汚染物質	60	660
		アスベスト	18	18
		環境影響	0	0
		騒音常時監視	0	0
		PM2.5	8,811	9,783
	発生源試験	事業場排ガス	1	9
		沿道調査	0	0
		悪臭パネル試験	0	0
	環境放射能試験	放射能常時監視	365	365
		環境試料	23	1,771
		降水	98	98
		精度管理模擬試料	5	390
		事故対応	12	12
その他	事故、苦情等	22	66	
	受託調査	12	72	
計			13,077	41,349
水質科	環境水質試験	公共用水	567	8,129
		富士五湖	108	2,268
		環境影響	0	0
		モニタリング等	30	90
	その他	事故、苦情等	35	210
		受託調査	3	18
計			744	10,716
廃棄物科	廃棄物試験	焼却灰	0	0
	浄化槽放流水試験	浄化槽	21	105
	土壌汚染	モニタリング	0	0
	排水試験	事業場排水	151	1,177
		一般廃棄物処分場	8	120
		産業廃棄物処理施設	11	195
	その他	事故、苦情等	0	0
計			191	1,597
合計			14,012	53,662

1 大気科

環境大気試験

大気汚染常時監視局10局の機器の稼働状況を確認するとともに、オキシダント濃度、窒素酸化物濃度、微小粒子状物質 (PM_{2.5}) 濃度などのデータの確定作業を行った。

光化学スモッグ注意報等の発令地域の近傍地域において、光化学オキシダント濃度等のデータ収集を行った。

また、ベンゼンなど有害大気汚染物質 11 物質について、延べ60 検体を測定した。

アスベストは、一般環境の延べ4 地点 (18 検体) で濃度を測定した。

発生源試験

事業場のばい煙発生施設 1 施設で、排ガス中の窒素酸化物などの検査を行った。

受託調査等

環境省の「化学物質環境実態調査」に参画し、甲府市内で大気汚染物質を採取した。調査結果は環境省から公表される。

放射能水準調査

原子力規制委員会の事業として、モニタリングポストで放射線を常時監視した。また、月間降下物、土壌や食品、水道水、大気浮遊粉じんなどの環境試料 23 検体の放射性元素を測定した。さらに降水を延べ 98 回測定した。以上の結果は、原子力規制委員会から公表される。

放射能精度管理試験

公益財団法人日本分析センターが配布する放射能試料の計 5 検体を測定し、分析精度を確認した。

福島原発事故対応モニタリング調査

平成 23 年 3 月 11 日に発生した福島第一原子力発電所事故対応のモニタリング調査を、原子力規制委員会の指示により行った。サーベイメータにより空間線量率の測定を毎月 1 回行った。これらの結果は、山梨県及び原子力規制委員会のホームページで公表されている。

騒音調査

騒音の苦情に対応するため、延べ 22 地点について騒音の測定を行った。

2 水質科

環境水質試験

河川、湖沼の公共用水域及び地下水延べ 567 検体について、それぞれ環境基準項目等を測定した。また、これらの調査に加え、湖沼の水質を保全する目的で、富士五湖の延べ 108 検体について水質を調査した。

早川の濁りなどの影響や経過を知るため、延べ 30 検体の水質をモニタリングした。

受託調査等

環境省の「化学物質環境実態調査」に参画し、甲府市内の河川で底質を採取した。調査結果は環境省から公表される。

苦情、事故等に伴う検査

地下水汚染調査のため、井戸水と河川水について 35 検体の検査を行った。(資料表 3)

3 廃棄物科

排水試験

事業場の排水延べ 151 検体、し尿処理施設、最終処分場などの放流水延べ 19 検体の検査を行った。

浄化槽放流水試験

「令和 4 年度浄化槽放流水検査計画」に基づき、浄化槽放流水 21 検体について検査を行った。

Ⅲ 資 料

- 表 1- 1 令和 4 年度 山梨県内流通国産農産物残留農薬試験結果
- 表 1- 2 令和 4 年度 山梨県内流通輸入食品（農産物・冷凍食品）残留農薬試験結果
- 表 1- 3 令和 4 年度 食品の理化学検査結果
- 表 2- 1 令和 4 年度 衛生動物検査結果
- 表 2- 2 令和 5 年 甲府地区スギ・ヒノキ花粉飛散量別日数及び平均値
- 表 2- 3 令和 4 年度 細菌感染症等に関する検査結果
- 表 2- 4 令和 4 年度 食中毒・集団下痢症等の細菌検査結果
- 表 2- 5 令和 4 年度 食品・医薬品等に関する細菌検査結果
- 表 2- 6 令和 4 年度 浴槽水等レジオネラ属菌検査結果
- 表 2- 7 令和 4 年度 ふきとり検査結果
- 表 2- 8 令和 4 年度 収去食品の細菌検査件数
- 表 2- 9 令和 4 年度 インフルエンザ流行予測調査結果
- 表 2-10 令和 4 年度 感染症発生動向調査におけるウイルス検出状況と臨床像
- 表 2-11 令和 4 年度 食中毒・集団下痢症のウイルス検査
- 表 3 令和 4 年度 環境汚染に係る苦情、事故等に伴う検査

表1-1 令和4年度 山梨県内流通国産農産物残留農薬試験結果

食品名 検体数	だいごんの根 3	トマト 3	きゅうり 5	おうとう 6	ずもも 9	とうもろこし 1
アクリナトリン	—	—	0.007-0.01(2)	0.03-0.04(2)	—	—
アセタミプリド	—	—	0.01(1)	—	0.01(1)	0.03(1)
アゾキシストロビン	—	—	—	0.07-0.3(5)	0.006-0.03(4)	—
イプロジオン	—	—	0.007-0.02(2)	—	—	—
イミダクロプリド	—	—	0.009(1)	—	0.004(1)	—
エトフェンブロックス	—	—	0.002(1)	—	—	—
クレソキシムメチル	—	—	—	—	—	—
クラントラニリプロール	—	—	—	0.02-0.08(3)	0.007-0.04(4)	—
クロルピリホス	—	—	—	—	0.001-0.005(9)	—
クロルフェナビル	—	—	—	—	—	—
シアゾファミド	—	0.004(1)	—	—	—	—
ジエトフェンカルブ	—	—	0.008(1)	—	—	—
シハロトリン	—	—	0.001(1)	—	—	—
シプロジニル	—	—	—	0.001-0.003(2)	—	—
スピノサド	—	—	—	—	—	—
ダイアジノン	—	—	—	0.002(1)	—	—
チアクロプリド	—	—	—	0.003(1)	—	—
チアメトキサム	—	—	—	—	—	—
テブコナゾール	—	—	—	0.002-0.5(6)	0.001-0.03(5)	—
テブフェンピラド	—	—	—	—	—	—
テフルトリン	0.001-0.002(2)	—	—	—	—	—
デルタメトリン及びトラロメトリン	—	—	0.005(1)	—	0.003-0.008(5)	—
トリアジメホン	—	—	—	—	—	—
トルフェンピラド	0.002-0.003(2)	—	0.004(1)	—	—	—
ピテルタノール	—	—	—	0.001-0.002(3)	—	—
ビフェントリン	—	—	—	0.04-0.1(5)	0.001-0.02(3)	—
ピラクロストロビン	—	—	—	0.006-0.2(6)	—	—
フェニトロチオン	—	—	—	—	—	—
フェンブコナゾール	—	—	—	0.001-0.3(6)	0.003-0.04(7)	—
ブプロフェジン	—	—	—	0.005-0.01(3)	0.04(1)	—
フルジオキソニル	—	—	—	—	—	—
フルフェノクスロン	—	—	—	—	—	—
フルリドン	—	—	0.004(1)	—	—	—
プロシミドン	—	—	0.002-0.2(3)	—	—	—
ベルメトリン	—	—	—	0.001-0.002(3)	0.001-0.03(6)	—
ボスカリド	—	—	0.006(1)	0.03-0.6(6)	—	—
メチダチオン	—	—	—	0.002-0.02(6)	—	—

食品名 検体数	もも 12	ぶどう 13	なす 2	かき 4	みかん 2
アクリナトリン	0.007-0.01(4)	0.02(1)	—	—	—
アセタミプリド	—	—	—	—	—
アゾキシストロビン	—	0.001-0.2(4)	—	—	—
イプロジオン	—	—	—	—	—
イミダクロプリド	—	0.001-0.04(4)	0.007(1)	—	—
エトフェンブロックス	—	—	—	—	—
クレソキシムメチル	0.001(2)	—	—	—	0.01(1)
クラントラニリプロール	—	0.04-0.05(2)	—	—	—
クロルピリホス	—	0.001-0.002(3)	—	—	—
クロルフェナビル	—	0.01(1)	—	—	—
シアゾファミド	—	—	—	—	—
ジエトフェンカルブ	—	—	—	—	—
シハロトリン	—	—	—	—	—
シプロジニル	—	0.003-0.05(8)	—	—	—
スピノサド	0.002-0.005(2)	—	—	—	—
ダイアジノン	—	0.004(1)	—	—	—
チアクロプリド	—	—	—	—	—
チアメトキサム	—	—	—	—	0.002(1)
テブコナゾール	—	0.001-0.03(5)	—	0.02-0.1(2)	—
テブフェンピラド	—	—	—	—	—
テフルトリン	—	—	—	—	—
デルタメトリン及びトラロメトリン	—	0.005-0.02(5)	—	—	—
トリアジメホン	—	—	—	—	—
トルフェンピラド	—	—	—	—	—
ピテルタノール	—	—	—	—	—
ビフェントリン	—	—	—	0.001-0.01(2)	—
ピラクロストロビン	—	—	—	—	—
フェニトロチオン	—	—	—	0.01-0.02(2)	—
フェンブコナゾール	0.001-0.009(10)	0.03(1)	—	—	—
ブプロフェジン	—	—	—	—	—
フルジオキソニル	—	0.01-0.2(3)	—	—	—
フルフェノクスロン	0.002-0.02(4)	—	—	0.003(1)	—
フルリドン	—	—	—	—	—
プロシミドン	—	—	—	—	—
ベルメトリン	—	0.002-0.006(4)	—	0.002(2)	—
ボスカリド	0.004(1)	—	—	—	—
メチダチオン	—	—	—	—	—

()内は検出数

以下の食品からは農薬は検出されなかった。

キウイ(3検体)、

表 1-2 令和 4 年度 山梨県内流通輸入食品（農産物・冷凍食品）残留農薬試験結果

食品名 検体数	かぼちゃ 3	冷凍ブロッコリー 1	冷凍さといも 1	バナナ 2	オレンジ 2	キウイ 1
アセタミプリド	0.008(1)	—	—	—	—	—
イミダクロプリド	0.02(1)	—	—	—	—	—
クロルピリホス	—	—	—	0.006-0.01(2)	—	—
ジフェノコナゾール	—	0.004(1)	—	—	—	—
ジメトモルフ	0.003(1)	—	—	—	—	—
チアトキサム	—	—	0.002(1)	—	—	—
テブコナゾール	0.003(1)	—	—	0.002(2)	—	—
ピフェントリン	—	—	—	0.001-0.009(2)	—	—
ピラクロストロピン	0.003(1)	—	—	—	—	—
ピリメタニル	—	—	—	0.002(1)	—	0.006(1)
フェンプロピモルフ	0.002(1)	—	—	0.002(1)	—	—
フルリドン	0.04(1)	—	—	—	—	—
ボスカリド	0.003(1)	—	—	—	—	—
メタラキシル及びメフェノキサム	0.005(1)	—	—	—	—	—
メトキシフェノジド	—	—	—	—	0.002(1)	—

()内は検出数

以下の食品からは農薬は検出されなかった。

冷凍カリフラワー(1検体)、冷凍えだまめ(1検体)

表1-3 令和4年度 食品の理化学検査結果

収去者	衛生薬務課																			保健所		合計	
	乳・乳製品	アイスクリーム類	生あん類	菓子類	果実酒・雑酒	食肉製品	こんにやく粉	魚肉ねり製品	清涼飲料水・果汁	ミネラルウォーター	調味料	漬物	菌食品	容器包装詰加熱加圧殺菌食品	あんぼ柿・ころ柿	めん類	乾燥果実	おもちゃ	器具及び容器包装	かんきつ類	小計		魚肉ねり製品
検体数	8	4	4	4	110	14	2	5	41	45	4	22	1	12	0	5	2	4	2	289	0	0	289
二酸化硫黄			4		110		2							12		5				133			133
ソルビン酸					110	14		5			1	22	1			5				158			158
安息香酸									41		4	22	1							68			68
パラオキシ安息香酸									41		3	22	1							67			67
サッカリンナトリウム																				0			0
プロピレングリコール																				0			0
タール色素				3				1				10								14			14
亜硝酸根						14		1												15			15
混濁									41											41			41
沈殿物及び固形の異物									41											41			41
ヒ素									41								1			42			42
鉛									41								2	4		47			47
カドミウム																		4		4			4
スズ																				0			0
PH									41											41			41
乳脂肪分	8	4																		12			12
無脂乳固形分	8	4																		12			12
比重	1																			1			1
酸度	1																			1			1
シアン化合物			4																	4			4
防ばい剤																			2	2			2
合成抗菌剤																				0			0
抗生物質																				0			0
内寄生虫用剤																				0			0
MW規格										2070										2070			2070
フタル酸エステル類																				0			0
亜鉛																	1			1			1
フェノール																	1			1			1
ホルムアルデヒド																	1			1			1
パツリン																				0			0
合計	18	8	8	3	220	28	2	7	287	2070	8	76	3	12	0	10	6	8	2	2,776	0	0	2,776

表2-1 令和4年度 衛生動物検査結果

分類	昆虫類	ダニ類	その他	同定不能	計	月日	依頼機関	検査項目	検体数
食品異物	1	0	0	0	1	4/18	甲府市保健所	アニサキス	1
衛生動物	1	0	1	0	2	6/14	中北保健所	アニサキス	1
寄生虫	0	0	0	0	0	6/29	中北保健所	アニサキス	1
電話相談	1	0	0	0	1	10/12	中北保健所	アニサキス	1
計	3	0	1	0	4	2/18	中北保健所	アニサキス	1

(衛生動物・寄生虫関連検査等の内訳)

月日	依頼機関	数量	結果	備考
6/24	県民	1	電話相談	ヤスデ駆除方法について
8/12	峡東保健所	1	オオタバコガ幼虫	メロンパン包装袋内に虫
11/30	富士・東部保健所	1	ハイイロゴケグモ雌	同定依頼
12/8	県民	2	タイワンクマバチ	同定依頼

表2-2 令和5年 甲府地区スギ・ヒノキ花粉飛散量別日数及び平均値

測定期間	月/日～月/日	花粉量		スギ・ヒノキ花粉飛散量別日数					1日当たり花粉飛散平均値	
		スギ	ヒノキ	微量 0～1	少ない ～10	やや多い ～30	多い ～100	非常に多い 101～	スギ	ヒノキ
第1週	1/1～1/7	0.2	0.0	7					0.0	0.0
2	1/8～1/14	0.0	0.0	7					0.0	0.0
3	1/15～1/21	0.5	0.0	7					0.1	0.0
4	1/22～1/28	0.2	0.0	7					0.0	0.0
5	1/29～2/4	0.7	0.0	7					0.1	0.0
6	2/5～2/11	0.6	0.0	7					0.1	0.0
7	2/12～2/18	47.8	0.0	4	2		1		6.8	0.0
8	2/19～2/25	70.9	0.0	1	3	2	1		10.1	0.0
9	2/26～3/4	2094.2	0.0		1			6	299.2	0.0
10	3/5～3/11	3329.7	0.0					7	475.7	0.0
11	3/12～3/18	693.8	106.3				4	3	99.1	15.2
12	3/19～3/25	74.6	265.5		1	1	4	1	10.7	37.9
13	3/26～4/1	11.9	1299.1					7	1.7	185.6
14	4/2～4/8	10.9	823.9			1	2	4	1.6	117.7
15	4/9～4/15	1.5	110.4	1	1	5			0.2	15.8
16	4/16～4/22	0.2	203.0		3	3		1	0.0	29.0
17	4/23～4/29	-	14.5	2	5				-	2.1
18	4/30～5/6	-	7.4	4	3				-	1.1
19	5/1～5/13	-	2.6	7					-	0.4
20	5/14～5/15	-	0.0	2					-	0.0
合計		6337.7	2832.7	63	19	12	12	29	905.4	404.8

-：観測終了（飛散終了日に伴う）

観測場所：衛生環境研究所屋上

花粉量：1cm²あたりの換算値（個）

表2-3 令和4年度 細菌感染症等に関する検査結果

月 日	依頼機関	疾病名	検体数		結果
			糞便・他	菌株	
4/13	甲府市保健所	CRE感染症		1	<i>K. aerogenes</i> (カルバペネマーゼ非産生性)
6/ 2	甲府市保健所	CRE感染症		1	<i>E. coli</i> (カルバペネマーゼ非産生性)
6/29	富士・東部保健所	EHEC感染症	5	1	EHEC O157:H7 (Stx2)
7/ 5	峡東保健所	CRE感染症		1	<i>E. cloacae</i> (カルバペネマーゼ非産生性)
7/15	甲府市保健所	CRE感染症		1	<i>K. pneumoniae</i> (カルバペネマーゼ非産生性)
8/ 4	甲府市保健所	CRE感染症		1	<i>K. aerogenes</i> (カルバペネマーゼ非産生性)
8/23	中北保健所	CRE感染症		1	<i>K. pneumoniae</i> (カルバペネマーゼ非産生性)
8/25	中北保健所	EHEC感染症	4	1	EHEC O121:HNM (Stx2)
9/22	甲府市保健所	CRE感染症		1	<i>E. cloacae</i> (カルバペネマーゼ非産生性)
10/ 3	峡東保健所	CRE感染症		1	<i>E. cloacae</i> (カルバペネマーゼ非産生性)
10/14	富士・東部保健所	レジオネラ症	1		-
11/28	中北保健所	EHEC感染症	4	1	EHEC O91:HNM (Stx1)
12/5	甲府市保健所	CRE感染症		1	<i>K. aerogenes</i> (カルバペネマーゼ非産生性)
12/22	富士・東部保健所	EHEC感染症	7	1	EHEC OUT:HNM (Stx2)
1/4	甲府市保健所	EHEC感染症	2		-
1/10	富士・東部保健所	EHEC感染症	2		-
1/10	甲府市保健所	CRE感染症		1	<i>E. cloacae</i> (カルバペネマーゼ非産生性)
1/24	甲府市保健所	CRE感染症		1	<i>K. aerogenes</i> (カルバペネマーゼ非産生性)
3/30	甲府市保健所	CRE感染症		1	<i>K. aerogenes</i> (カルバペネマーゼ非産生性)
合計			25	16	

EHEC:腸管出血性大腸菌 CRE:カルバペネム耐性腸内細菌科細菌

表2-4 令和4年度 食中毒・集団下痢症等の細菌検査結果

月 日	依頼機関	検体数			計	検出菌	
		糞便・吐物	食品	その他		ヒト・菌株由来(株数)	食品・その他由来(株数)
5/26	中北保健所	10		10	20	<i>C. jejuni</i> (1)	-
6/23	中北保健所	1			1	-	-
6/23	富士・東部保健所	1			1	-	-
6/23	甲府市保健所	5			5	-	-
6/24	中北保健所	3	51		54	-	<i>B. cereus</i> (1) EPEC O103 (1)
6/24	甲府市保健所		2		2	-	-
7/12	富士・東部保健所	14		10	24	<i>C. perfringens</i> (1)	-
8/24	甲府市保健所	8		8	16	EPEC OUT (1)	-
8/24	中北保健所	4			4	-	-
8/26	中北保健所	1			1	-	-
8/26	甲府市保健所	3		9	12	-	-
9/16	甲府市保健所	2			2	<i>S. aureus</i> (1)	-
10/13	中北保健所			5	5	-	-
10/14	中北保健所	3			3	<i>C. jejuni</i> (1)	-
10/19	中北保健所	1			1	-	-
10/20	中北保健所			5	5	-	-
11/19	甲府市保健所	1			1	-	-
11/19	富士・東部保健所	52	18	9	79	<i>C. perfringens</i> (28) <i>S. aureus</i> (3)	-
2/ 3	甲府市保健所	6		5	11	-	-
2/ 3	峡東保健所	2			2	-	-
2/ 3	中北保健所	17		10	27	EPEC OUT (1) <i>S. aureus</i> (1)	-
合計		134	71	71	276		

表2-5 令和4年度 食品・医薬品等に関する細菌検査結果

月 日	依頼機関	検査項目	検体	検体数	結果
2/ 3	衛生薬務課	無菌試験	真空採血管	1	基準適合
合 計				1	

表2-6 令和4年度 浴槽水等レジオネラ属菌検査結果

採水日	依頼機関	検体数	陽性検体数	菌種 (株数)	群血清 (株数)
9/28	富士・東部保健所	11	4	<i>L. pneumophila</i> (6)	SG1 (3) SG5 (1) SG6 (1) UT (1)
3/20	峡南保健所	1	1	<i>L. pneumophila</i> (1)	SG1 (1)
合計		12	5		

表2-7 令和4年度 ふきとり検査結果

依頼機関	大腸菌群		黄色ブドウ球菌	
	検査数	陽性数 (%)	検査数	陽性数 (%)
衛生薬務課	807	71 (8.8)	807	14 (1.7)
保健所	125	34 (27.2)	125	6 (4.8)
合 計	932	105 (11.3)	932	20 (2.1)

表2-9 令和4年度 インフルエンザ流行予測調査結果

1: A/Victoria/1/2020[A (H1N1) pdm09亜型]株に対するHI抗体価

年齢層 (歳)	例数	H I 抗体 価								≥10抗体 保有者数 (%)	≥40抗体 保有者数 (%)
		<10	10	20	40	80	160	320	≥640		
5~9	3	1	1	1	0	0	0	0	0	2 (66.7)	0 (0.0)
10~14	8	3	1	1	2	1	0	0	0	5 (62.5)	3 (37.5)
15~19	13	5	3	1	2	2	0	0	0	8 (61.5)	4 (30.8)
20~29	18	10	3	2	1	2	0	0	0	8 (44.4)	3 (16.7)
30~39	17	10	4	1	2	0	0	0	0	7 (41.2)	2 (11.8)
40~49	22	18	1	0	2	1	0	0	0	4 (18.2)	3 (13.6)
50~59	22	17	2	2	1	0	0	0	0	5 (22.7)	1 (4.5)
60~	22	16	4	1	1	0	0	0	0	6 (27.3)	1 (4.5)
全年齢層	125	80	19	9	11	6	0	0	0	45 (36.0)	17 (13.6)

2: A/Darwin/9/2021[A (H3N2) 亜型]株に対するHI抗体価

年齢層 (歳)	例数	H I 抗体 価								≥10抗体 保有者数 (%)	≥40抗体 保有者数 (%)
		<10	10	20	40	80	160	320	≥640		
5~9	3	1	0	1	1	0	0	0	0	2 (66.7)	1 (33.3)
10~14	8	3	1	0	3	1	0	0	0	5 (62.5)	4 (50.0)
15~19	13	5	0	2	6	0	0	0	0	8 (61.5)	6 (46.2)
20~29	18	8	2	2	4	1	1	0	0	10 (55.6)	6 (33.3)
30~39	17	9	0	1	6	1	0	0	0	8 (47.1)	7 (41.2)
40~49	22	8	2	2	9	1	0	0	0	14 (63.6)	10 (45.5)
50~59	22	10	3	2	3	4	0	0	0	12 (54.5)	7 (31.8)
60~	22	11	1	3	6	1	0	0	0	11 (50.0)	7 (31.8)
全年齢層	125	55	9	13	38	9	1	0	0	70 (56.0)	48 (38.4)

3: B/Phuket/3073/2013[B型 (山形系統)]株に対するHI抗体価

年齢層 (歳)	例数	H I 抗体 価								≥10抗体 保有者数 (%)	≥40抗体 保有者数 (%)
		<10	10	20	40	80	160	320	≥640		
5~9	3	0	3	0	0	0	0	0	0	3 (100.0)	0 (0.0)
10~14	8	0	4	2	2	0	0	0	0	8 (100.0)	2 (25.0)
15~19	13	1	4	7	0	0	1	0	0	12 (92.3)	1 (7.7)
20~29	18	4	8	3	3	0	0	0	0	14 (77.8)	3 (16.7)
30~39	17	4	7	5	1	0	0	0	0	13 (76.5)	1 (5.9)
40~49	22	5	7	4	3	2	0	1	0	17 (77.3)	6 (27.3)
50~59	22	2	7	4	3	3	1	0	2	20 (90.9)	9 (40.9)
60~	22	1	7	4	3	5	2	0	0	21 (95.5)	10 (45.5)
全年齢層	125	17	47	29	15	10	4	1	2	108 (86.4)	32 (25.6)

4: B/Austria/1359417/2021[B型 (ヒケリア系統)]株に対するHI抗体価

年齢層 (歳)	例数	H I 抗体 価								≥10抗体 保有者数 (%)	≥40抗体 保有者数 (%)
		<10	10	20	40	80	160	320	≥640		
5~9	3	2	1	0	0	0	0	0	0	1 (33.3)	0 (0.0)
10~14	8	3	4	1	0	0	0	0	0	5 (62.5)	0 (0.0)
15~19	13	8	1	2	2	0	0	0	0	5 (38.5)	2 (15.4)
20~29	18	6	4	6	1	1	0	0	0	12 (66.7)	2 (11.1)
30~39	17	7	2	5	3	0	0	0	0	10 (58.8)	3 (17.6)
40~49	22	10	7	3	1	1	0	0	0	12 (54.5)	2 (9.1)
50~59	22	7	5	7	1	1	1	0	0	15 (68.2)	3 (13.6)
60~	22	13	6	3	0	0	0	0	0	9 (40.9)	0 (0.0)
全年齢層	125	56	30	27	8	3	1	0	0	69 (55.2)	12 (9.6)

表 2-10 令和 4 年度 感染症発生動向調査におけるウイルス検出状況と臨床像

検出ウイルス	検体数	2022年												2023年			合計	臨床像
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月					
		4,027	1,863	1,235	5,141	10,686	4,274	2,111	8,099	9,620	6,647	2,111	585					
インフルエンザウイルス(※2)	A (H1) pdm09 亜型 A (H3) 亜型 B 型 (ヒトリア系統) B 型 (山形系統)									1	14	10	15	3	40	インフルエンザ様		
アデノウイルス(※1)	D56 型									1	1				3	流行性角結膜炎		
ヒトヘルペスウイルス1(※2)	6 型 VariantB 7 型						1		1						1	急性脳炎		
デングウイルス(※2)	2 型				1										1	デング熱様		
チクングニアウイルス(※2)									1						1	チクングニア熱様		
新型コロナウイルス(※2)		405	303	116	587	978	248	121	538	764	563	183	19	4,825	COVID-19 疑い			
合計		405	303	116	588	978	249	121	540	766	578	193	39	4,876				

(※1)PCR法で遺伝子検出

(※2)リアルタイムPCR法で遺伝子検出

表2-11 令和4年度 食中毒・集団下痢症のウイルス検査

月日	保健所	検体数	検体				検出ウイルス*	検出数
			糞便	吐物	食品	ふきとり		
5.26	中北	2	2				—	0
6.21	富士東部	5	5				ノロウイルスG II	5
6.23	中北	1	1				ノロウイルスG II	1
	富士東部	1	1				ノロウイルスG II	1
	甲府市	5	5				ノロウイルスG II	4
6.24	中北	3	3				—	0
7.9	中北	29	19		3	7	ノロウイルスG II	7
	富士東部	23	18			5	ノロウイルスG II	9
7.13	甲府市	20	20				ノロウイルスG II	7
7.12	富士東部	24	14			10	—	0
8.24	甲府市	15	7			8	ノロウイルスG II	1
8.24	中北	4	4				ノロウイルスG I	1
							ノロウイルスG II	3
8.26	中北	1	1				—	0
	甲府市	12	3			9	—	0
9.16	甲府市	2	2				ノロウイルスG I	1
10.13	中北	8	3			5	—	0
10.19	中北	1	1				—	0
11.19	甲府市	1	1				ノロウイルスG II	1
11.19	富士東部	61	52			9	ノロウイルスG II	0
12.8	富士東部	6	6				ノロウイルスG II	5
1.11	峡東	2	2				ノロウイルスG I	2
1.20	峡東	2	2				ノロウイルスG II	1
1.23	峡東	5	5				ノロウイルスG I	1
							ノロウイルスG II	4
1.24	中北	11	11				ノロウイルスG II	9
1.25	峡東	5	5				ノロウイルスG II	3
1.27	峡東	9	8	1			ノロウイルスG II	9
1.30	甲府市	14	14				ノロウイルスG II	9
1.30	甲府市	11	11				ノロウイルスG II	4
1.30	峡東	20	20				ノロウイルスG II	13
2.2	富士東部	11	11				ノロウイルスG II	11
2.3	甲府市	11	6			5	ノロウイルスG II	3
	中北	32	22			10	ノロウイルスG II	8
	峡東	2	2				ノロウイルスG II	1
2.7	峡東	8	8				ノロウイルスG II	8
2.13	峡東	10	10				ノロウイルスG II	10
2.21	中北	9	9				ノロウイルスG II	7
3.5	中北	6	6				ノロウイルスG II	6
3.8	富士東部	28	10			8	ノロウイルスG II	5
3.17	峡南	2	2				ノロウイルスG II	2
3.28	峡東	11	11				ノロウイルスG II	6
	合計	433	343	1	11	78		168

*ノロウイルス:リアルタイムRT-PCR法

表 3 令和 4 年度 環境汚染に係る苦情、事故等に伴う検査

月日	依頼者	種別	摘要	検体	項目
1/26	大気水質保全課	水質汚濁	地下水汚染調査	35	210
合 計				35	210

IV 論文抄録および学会発表

論文抄録

学会発表

○山谷聡子, 今野貴之, 山中拓哉, 床井由紀, 柳本恵太, 小嶋由香, 高橋直人, 小林章人, 松永典久, 齊木大, 土井りえ, 新井沙倉, 廣瀬昌平, 工藤由起子

*Escherichia albertii*の食品での試験法のコラボレイティブ・スタディによる評価(1)(第43回日本食品微生物学会学術総会, 2022. 9. 29~30)

○柳本恵太, 松永典久, 小林章人, 高橋直人, 小嶋由香, 床井由紀, 山谷聡子, 山中拓哉, 今野貴之, 土井りえ, 齊木大, 新井沙倉, 廣瀬昌平, 工藤由起子

*Escherichia albertii*の食品での試験法のコラボレイティブ・スタディによる評価(2)(第43回日本食品微生物学会学術総会, 2022. 9. 29~30)

○小嶋由香, 今野貴之, 山中拓哉, 床井由紀, 柳本恵太, 山谷聡子, 高橋直人, 小林章人, 松永典久, 齊木大, 土井りえ, 新井沙倉, 廣瀬昌平, 工藤由起子

*Escherichia albertii*の食品での試験法のコラボレイティブ・スタディによる評価(日本食品衛生学会第118回学術講演会, 2022. 11. 10~11)

○新井沙倉, 高橋直人, 床井由紀, 小林章人, 松永典久, 山中拓哉, 今野貴之, 土井りえ, 齊木大, 山谷聡子, 小嶋由香, 柳本恵太, 廣瀬昌平, 工藤由起子
食品における*Escherichia albertii*検出法のコラボレイティブスタディによる評価(第96回日本細菌学会総会, 2023. 3. 16~18)

○中田陽子

イネ科及びブタクサ花粉の飛散と植生分布に関する研究(第81回日本公衆衛生学会総会, 2022. 10. 7~9)

○柳本恵太, 植松香星, 望月映希, 鶴田芙美, 山上隆也, 久田美子, 田中慶郎, 杉山寛治, 茶山忠久, 市村祐二, 泉山信司

有機物が含まれる温泉におけるモノクロラミンの消毒効果(令和4年度山梨県公衆衛生研究発表会, 2023. 2. 2)

○柳本恵太, 植松香星, 望月映希, 鶴田芙美, 山上隆也, 久田美子, 田中慶郎, 杉山寛治, 茶山忠久, 市村祐二, 泉山信司

山梨県内の温泉施設におけるモノクロラミン消毒実証試験と浴槽水の菌叢解析について(第34回地方衛生研究所関東甲信静支部細菌研究部会, 2023. 2. 9~10)

○長谷川裕弥

河口湖と精進湖における植物プランクトン由来のCODについて(第57回日本水環境学会年会, 2023. 3. 15~17)

○鈴木元治, 岩渕勝己, 阿部なるみ, 長濱祐美, 見島伊織, 石井裕一, 長谷川裕弥, 大島詔, 濱脇亮次, 西嶋渉

水環境中の有機物の分解特性の評価(第57回日本水環境学会年会, 2023. 3. 15~17)